

# 「人間らしさ」から

根木内中学校長

すずき たかのり

鈴木 孝則

「人が互いに支えあって生きる」ことは、誰もが理解していると思います。しかし、現代社会では、この人間の生き方の基本が、すっかり崩れてしまっていることも事実です。

- ・対人関係が上手に保てない。人と会うのが不得意。
- ・気に入らないことがあるとすぐに切れてしまう。
- ・簡単に暴力を振るってしまう。
- ・相手の存在が理解できず、自分が傷つくと同時に相手をも傷つけてしまう。
- ・異性への対応がわからず、ストーカーのような行動をとってしまう。

このことは、「時代の流れでしかたがない」という言葉で片づけられる変化ではなく、崩壊であり、末期的、危機的で状況であると考えられます。

子どもは、親にとって何物にも代えがたい宝です。その宝を預かっている学校は、我々教職員が一丸となって、誠心誠意責任を持って教育にあたることは当然のことです。しかし、子どもの教育は、学校だけでその効果を十分にあげることにはできません。学校と家庭が車の両輪となって、宝である子どもを乗せ、同じ方向に向かって、同じスピードで進んでいくことがとても重要になります。また、子どもの教育は、学校、家庭、地域がそれぞれの教育機能を発揮してはじめて成り立つものだと思います。

今こそ、学校、家庭、地域が手を取り合って、日本の将来を担う子どもたちに、人間らしく生きるための基礎を身につけさせることに最善を尽くす必要があります。

「人間らしさ」とは

- ・挨拶ができる。
- ・目を見て会話ができる。
- ・相手の存在を認識できる。
- ・感謝の言葉が言える。
- ・一緒に作業ができる。
- ・我慢、譲ることができる。

これら「生きるための基礎」が身につけば、豊かな感情がある、基本的なルールを理解し守ることができる、自分の将来について考える、障害を乗り越える強さがある。等の親をはじめ、地域・社会が期待する力を備えることができるはずです。そして、人間関係が改善され、豊かな社会を形成することができると思います。

最後になりますが、家庭・地域の一員である「小金原おやじの会」の取組みに期待するとともに、お力添えをいただきながら、教職員一同、学校教育に邁進していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。